

# よみがえる開運まちアソビ

事業実施主体：ウエストコーストぐんげ商店街協同組合  
事業実施箇所：兵庫県淡路市  
商店街店舗数：14店舗

- 淡路島は古事記において日本のはじまりの島とされており、さらに、商店街近辺にある伊弉諾神宮（いざなぎじんぐう）は「国生み神話」発祥の、御利益がある場所とされている。
- 伊弉諾神宮のよみがえる神話のブランディング・イベント、淡路伝統芸能祭、廃校を活用した交流の場づくり等を実施し、商店街並びに地域の活性化を図る。

## 背景・課題

- ✓ 伊弉諾神宮には年間180万人ほどの観光客が訪れるようになっていたが、コロナ禍の影響により、国内外からの観光客が激減してしまった。
- ✓ また、商店街の既存メンバーだけでは求心力が弱く、伊弉諾神宮の集客力を有効に活かし切れていないという課題もある。

## 取組内容

- ✓ 国生み神話「よみがえる」をテーマに謎解きツアーを作成し、観光商品として確立する。
- ✓ 特設ステージでの淡路伝統芸能祭や商店街バザー、地元特産品が当たる抽選会、空き店舗を活用したDIYや竹細工の体験などのイベントを実施する。
- ✓ 廃校になった高校を新たな交流の場として開放する。

## 見込まれる効果等

- ✓ 伊弉諾神宮に基づいた謎解きツアーを作成し、国生み神話というブランドを広め、定着させることで、イベント以降も続く、観光客の来街につなげる。
- ✓ 淡路伝統芸能祭や淡路島の特産品を景品に活用した抽選会の開催、DIYや竹細工の体験イベントの実施などにより、地元淡路島の魅力を域内外へ発信し、地域の魅力の認知や再発見につなげる。
- ✓ 廃校となっていた旧淡路高校（一宮校）を、新たな交流の場としてよみがえらせ、地域の賑わいの拠点として再利用を図る。



←商店街のようす



イベントのようす→

## (参考) 国生み神話のブランディング

- 淡路島西部にある郡家商店街の近くには、日本神話の源である伊弉諾神宮があり、今では180万人もの観光客が訪れる有名な観光地である。
- 伊弉諾神宮には夫婦円満・開運といったご利益と、伊弉諾尊が桃の実を投げて抵抗することで黄泉の国からよみがえったというご利益があることから、コロナ禍で低迷している経済や観光事業を「国生み神話」のブランディングでよみがえらせようというテーマを設定。
- また、伊弉諾尊が桃の実の力により黄泉の国からよみがえった神話に基づいて、桃に関する絵馬や皿、まんじゅうなどの商品を開発する。

⇒「国生み神話」というブランディングを確立することによって、今回の事業以降も、地域経済や観光事業の活性化につなげていく。

